

長野県薬剤師会における自殺対策及び過量服薬防止への取組み －「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」の作成－

高田弘子、日野寛明（一般社団法人 長野県薬剤師会）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター）

キーワード：自殺対策、過量服薬防止、地域連携、ゲートキーパー

要旨：長野県薬剤師会では会員が自殺防止ゲートキーパーの役割を果たすべく、研修会、冊子配布、紹介先リストの作成を行った。3回の研修会には延べ221名が参加し、会員の自殺防止対策への意識が高まり、94%の参加者が実務に有用な研修であると答えた。また参加者の要望から作成した「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」は、援助を必要とする方に対し、会員が適切なつなぎを行う際に有用なツールとなった。またリストは会員薬局・病院・診療所の他、関係機関447箇所へ配布を行い、薬剤師がゲートキーパーの一端を担う存在であることへの理解につながった。

A. 目的

わが国の自殺者の数は年間3万人前後で推移し、国を挙げて自殺対策が進められている。厚労省が組織した自殺・うつ病等対策プロジェクトチームが平成22年9月に出した答申には「薬剤師を活用せよ」という提言も含まれ、医療・健康に関わる職種として薬剤師が自殺防止に貢献することが求められている。長野県薬剤師会では、会員の「自殺対策」「向精神薬過量服薬」への知識・意識を向上し、自殺防止のゲートキーパーとしての役割を果たすことを目的として、研修会の実施・冊子配布・紹介先リストの作成を行った。

B. 方法

①研修会の実施

平成23年8月より平成25年3月にかけて合計3回の研修会を行った。実際に地域薬剤師会で自殺予防に取り組んでいるモデル事業の紹介や、国の機関で自殺防止に取り組む薬剤師、大学病院の救急治療室で働く精神保健福祉士の講演、精神科医より高度救命救急センターにおける自殺に関する患者の状況の報告など、様々な分野・職域における第一線での自殺防止への取り組みを紹介した。また長野県精神保健福祉センター所長による県の自殺防止対策の現状報告及びゲートキーパー養成講座を行った。講演後は少人数のグループに分かれ、テーマを決めて討議を行い、結果をまとめた。

<討議1>「薬剤師の気づき・関わり・つなぎ」

～気づき・関わり・つなぎ班に分かれて討議～

<討議2>「過量服薬の対応を考える」

～具体的な声かけを考える～

また、研修会終了後に参加者に対し、研修会の有用度及び研修会に対する感想・意見を自由記載するアン

ケートを行った。

②テキスト配布

長野県精神保健福祉センターで作成した「ゲートキーパーのためのテキスト」「自殺関連相談ハンドブック」を長野県薬剤師会で増刷し、会員薬局及び会員の勤務する病院・診療所へ配布した。

③紹介先リストの作成

研修会における参加者の討議の中から「実際に事例に遭遇した際に連携をとる紹介先を日頃から把握すべきである」との意見が出され、それを受けて「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」を作成した。第1章に自殺防止ゲートキーパーの心得、第2章に過量服薬防止において薬剤師がすべきこと、第3章に薬剤師がつなぐ可能性の高い紹介先のリストを掲載した。巻末には「地域の相談機関リスト」のページを空欄で用意し、各地域で得た情報を県薬のホー



～紹介先リストの内容～

1. 薬剤師の果たす役割
2. ゲートキーパーの一員としての役割
自殺予防ゲートキーパーの活動
自殺のサイン
内閣府自殺対策研修動画案内 等
3. 過量服薬防止に関する医療的な対策への貢献
適切な薬物治療の提供
具体的な事項
過量服薬の未然防止をめざして 等
4. うつ病及び自殺防止対策関連資料
5. 自殺予防のための相談窓口リスト
各種相談窓口
6. 地域の相談機関リスト（書き込み式）
7. 相談受付事例報告書

ムページに掲載し、ダウンロードして貼付できるように工夫した。

C. 結果

1. 研修会：研修会は延べ221名が参加した。講演後の討議では、実際の現場で自殺願望を持つ患者や過量服薬が疑われる患者に対応した経験を持つ参加者もあり、各々の体験をもとに活発な討議が行われた。討議の中で薬剤師が適切なつなぎを行うためには、必要な関係機関を把握しておくと同時に、日頃から顔のみえる関係を構築しておくことが望まれるという意見が出され、紹介先リストの作成につながった。研修会後のアンケートでは実務に有用という回答が平均94%となり、感想としては実際にゲートキーパーとしての職能を果たしたいという意見が多く見られた。
2. 「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」は会員薬局及び会員の勤務する病院・診療所のほか、関係機関447箇所へも配布を行った。また自治体に自殺対策協議会が設置されるに当たり、配布を要請された事例もあった。

D. 考察

1. 研修会を重ねる中で、会員の自殺防止対策への意識の高まりが見られ、薬剤師としての気づきを促すきっかけになったと思われる。過量服薬防止に対し、医師の処方意図を理解できる知識や、患者に対する具体的な対応についてロールプレイなどを用いてもっと学びたいという声もあり、患者に寄り添う薬剤師になりたいという思いが感じられた。

2. 紹介先リストは会員が日常の業務の中で援助を必要とする方に対応した際に適切な機関へ紹介する際に有用なツールとなった。リストを関係機関にも配布することにより、薬剤師がゲートキーパーの一端を担う存在であることを広く理解してもらうことができた。また巻末の「地域の相談先リスト」に記載する地域情報を長野県薬剤師会ホームページに掲載するにあたり、各エリアの担当者が地域の相談機関を調査したことが、各地域薬剤師会が関係機関とつながりを持つきっかけとなった。

E. まとめ

薬剤師は地域住民の健康状態に関する情報に接する機会が多い職業としてゲートキーパーの役割が期待されている。研修を通して意識を高く持ち、向精神薬を正しく使えない方に早期に気づき声かけをしたり、援助を必要としている方を紹介先リストを用いて適切な関係機関につなぐ等その役割を果たすとともに、信頼される援助者であり続けることが薬剤師に求められている。自殺に傾いた方を支えるためには、地域でのネットワークが不可欠であり、その一員として薬剤師が職能を発揮していきたい。

F. 資料・文献

- 1) 長野県精神保健センター、長野県自殺予防情報センター：守ろうたいせつないのち ゲートキーパーのためのテキスト第2版2011。
- 2) 茨城県、(社)茨城県薬剤師会、茨城県病院薬剤師会他：向精神薬服薬指導マニュアル～STOP！過量服薬～2012。
- 3) 厚生労働省自殺・うつ病対策プロジェクトチーム：過量服薬への取組—薬物治療にのみ頼らない診療体制の構築に向けて—2010。
- 4) 嶋根卓也：薬剤師から見た向精神薬の過量服薬 精神科治療学、27(1)、87-93、2012。
- 5) 日本薬剤師会：過量服薬対策、自殺対策に関する今後の取り組み 2011。